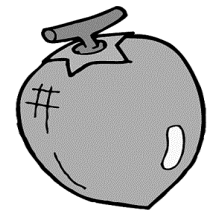


柿栽培技術情報（5月の管理）



令和5年5月8日
宮城県大河原農業改良普及センター

《5月の管理のポイント》

アメダス丸森の観測データ(日最低気温)では4月4日(-3.1℃)、10日(-2.5℃)、25日(-2.7℃)が観測されました。

1 気象経過

3月は、高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多く、仙台では1953年（昭和28年）の観測開始以来最も早い3月26日にサクラが開花しました（平年差、昨年差共13日早い）。4月は、平年よりも高く推移し（図1）、4月4日、10日、25日は氷点下の気温となりました。

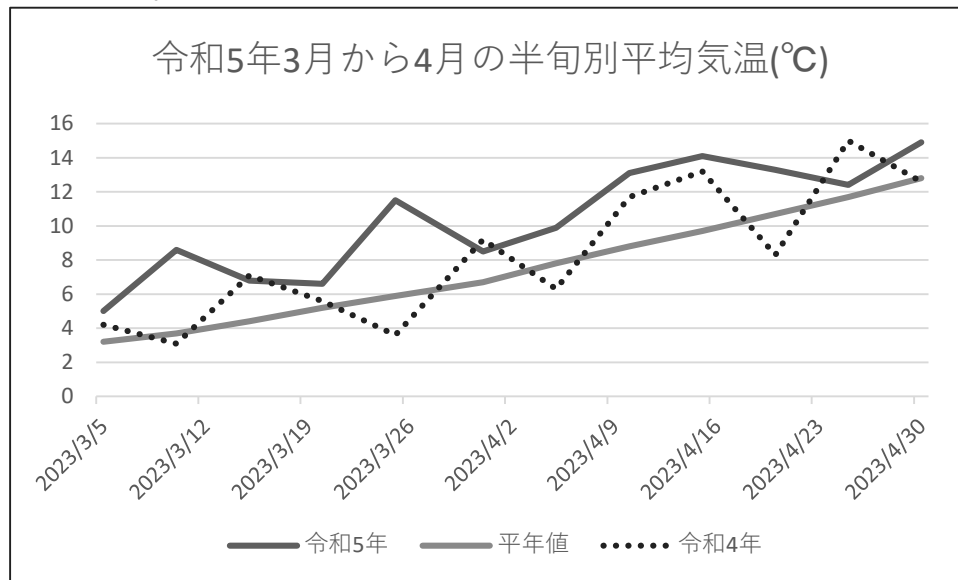


図1 アメダス丸森地点の半旬別平均気温の経過

2 凍霜害を受けた場合の対策

被害程度を見極めて、着果管理を行います。次年度に向けた管理として、新梢の徒長と二次伸長を防ぎ、充実した結果母枝を確保するとともに、被害程度と樹勢に合わせた施肥を心がけてください。

また、結実が少なくとも来年以降の管理を考え、病虫害防除も適切に行ってください。

3 5月の栽培管理

(1) 授粉の準備

- ・かきは、平年であれば6月上・中旬に開花しますが、今年はやや早くなりそうなので生育状況を十分確認してください。
- ・かきは虫媒花で訪花昆虫はミツバチが最も多く、ミツバチの放飼効果は高く結実率が向上します。

(2) 芽かき

- ・骨格となる枝の直上に発生した新梢や枝が伸びる方向に逆行する新梢は、養分の浪費を防ぐため早めに除去します。
- ・大きな切り口に発生した新梢は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促進します。
- ・弱い新梢は、次の年の側枝に育成することもできます。

4 病虫害防除

今年は平年より生育が早まっているため、かきの生育ステージを確認し、遅れないように防除を実施しましょう。

適正な肥培管理、通風採光をよくするなどして発病しにくい栽培環境づくりに努めてください。

(1) 炭そ病

炭そ病は白石市、丸森町での発生量が多く重要な病害です。

イ 発生生態

- ・病原菌は枝の病斑の中で、菌糸の状態越冬しています。
- ・3月下旬頃からの降雨で病斑の表面がぬれると孢子をつくり、第一次伝染源となります。
- ・孢子は雨水で伝搬され、新しい組織に侵入します。7～10日の潜伏期間を経て、降雨があると新しい病斑上に孢子をつくり第二次伝染源となって被害が拡大します。
- ・発生が助長される条件として気温が20～27℃、5月～梅雨時期と秋季の温暖多雨、通風の悪い園では発病が多くなります。
- ・8月に高温・乾燥期間が続くと一時沈静化しますが、気温が下がる8月下旬以降に降雨が続くと果実の発病が激しくなります。

ロ 防除のポイント

・耕種的対策

被害枝や被害果は切除して、園外へ処分します。

・薬剤防除

重点防除時期は6月中旬～7月中旬、8月下旬～9月下旬です。炭そ病菌は雨水で感染拡大しますので週間天気予報を注視し、降雨前に薬剤防除を実施しますが散布後1～2日程度は降雨のない日に防除すると効果が高くなります。



【炭そ病の新梢病斑】

(2) 円星落葉病

円星落葉病は管内での発生量が多く重要な病害です。

イ 発生生態

- ・病原菌は、落葉の病斑内部で越冬しています。
- ・4月以降になると子のう殻をつくり、その中にできた子のう孢子は、風雨により飛散します。
- ・感染時期は5月中旬～7月上旬です。
- ・感染後2～4か月の潜伏期間を経て、9月上旬頃から発病をはじめ、9月中旬～下旬にかけて急激に発病します。
- ・生育期の病斑上では孢子ができないので二次感染はありません。

□ 防除のポイント

・落葉処理

被害落葉は集めて土中に埋めるなど適切に処分します。

・薬剤防除

重点防除時期は5月～7月です。特に6月落花期の防除を徹底します。



【円形落葉病の秋の病斑】

(3) 角斑落葉病

イ 発生生態

- ・病原菌は落葉中の菌糸で越冬しています。
- ・5月下旬～6月上旬頃、落葉上に分生胞子をつくり風雨により飛散します。
- ・一次感染の主要な時期は、6月中旬～7月中旬です。
- ・感染後1か月の潜伏期間を経て7月頃から発病をはじめ、落葉時期にかけて発病します。
- ・葉の病斑上に分生胞子がつくられ二次感染を引き起こします。

□ 防除のポイント

- ・円形落葉病と同じです。

(4) カキクダアザミウマ

カキクダアザミウマは若葉や果実を加害する害虫です。

イ 生態

- ・年1回の発生です。
- ・成虫態で樹皮のすきまにもぐり集団で越冬しています。
- ・4月に越冬成虫が飛来し若葉を縦に巻き、その中で産卵し5月には第1世代幼虫が発生します。成虫は体長2mm程度で黒い色をしています。
- ・第1世代成虫は6月に幼果を加害し、果実に黄褐色の小斑点が輪状にあらわれます。
- ・7月下旬までには、かき、まつ、すぎなどの樹皮下に移動します。



【カキクダアザミウマの成虫】

□ 防除のポイント

- ・巻葉は見つけ次第除去します。
- ・薬剤防除は5～6月に実施します。

【農薬使用上の注意】

- ・農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認し使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。